



## 季節を知ったら 暮らしが楽しくなった

（第二一〇号）

はくろ  
白露

九月八日

## 働き者の海女

酷暑の今夏、この暑さ、いつまで続くのかと思っただけでしたが、二十四節気では秋気がようやく加わるといって白露を迎えました。朝夕の風は秋の気配です。

来年五月開催の伊勢志摩サミットに向けて、志摩市賢島が注目されていますが、会場と予想される志摩観光ホテルは昭和二六年に開業した当時としては珍しいリゾートホテルでした。

同五四年十二月に発行されたホテル創立三〇周年記念号『浜木綿』には、終戦後の伊勢志摩地方の開発とともに歩んできた歴史や、常宿としていた家の山崎豊子さんの創作秘話、永年勤めた元従業員による座談会などが記されています。座談会では、手探り状態で始まった開業当初の苦労や名物的な人物など日常的な出来事が語られています。賢島のホテルまで鳥羽の海女が働きに来ていたことを知り、驚きました。

開業十年後には旅館部が出来、従業員は昼も夜もなく働いたようですが、その頃、鳥羽の菅島から若い海女が三、四人通っていたのです。朝一番の電車で賢島から鳥羽へ帰り、菅島で海に潜って夕方四時ごろ賢島荘に出勤。それから夜十時過ぎまで働いて翌朝また鳥羽へ帰るといって厳しいスケジュールです。若い海女のよく働くことに従業員も感心していました。

今夏は天候不順で海女がアワビ漁に出る回数が少ないと聞きました。アワビ漁は九月十五日までと期間が限られていますから、さぞ働きものの海女のことですから、残念に思っていることでしょう。

サミットを機に、海女の文化が発信されるようですが、仕事に骨身を惜しまない姿勢、勤勉な面もアピールしてほしいものです。

文 千種清美

